

2023 年度 教員の自己点検・自己評価報告書

所属学部 学科	職位	氏 名
経営学部 地域ビジネス学科	教授	手嶋 慎介
最終学歴	学 位	専門分野
愛知学院大学大学院 経営学研究科 博士後期課程単位取得満期退学	修士 (経営学)	経営学

I 教育活動

○理念・目標・方針・計画（方法）

【理念】

学生の成長機会の創出に努めるため、担当科目のみならず、ライフデザイン科目や各専門科目を中心に目を配り、ビジネス社会・地域とのつながりを意識する。学生と一体感を持って取り組む。

【目標】

ライフデザインに関する知識・スキルを身につけ、ビジネス社会で通用する実践力や、オンラインの特長を有し、地域で活躍できる職業人を養成する。そのための意欲喚起策を検討する。

【方針】

学生一人ひとりの知識・スキルの修得状況は異なることや、ビジネス社会・地域が変化し続けることから、そこで求められるものの把握に努める。将来への展望を描く。

【計画（方法）】

学生のライフデザイン・ビジネス実践力の育成に結びつくような、受講生に適した授業法・学習法および教材を検討し作成する。これらについて、学生からのフィードバックの機会を求める。

【担当科目】

（前期）

インターンシップA、インターンシップB、インターンシップC、キャリア体験
ライフデザイン、基礎演習Ⅰ、専門プロジェクトⅢ、専門演習Ⅰ、専門演習Ⅲ

（後期）

インターンシップB、インターンシップC、基礎演習Ⅱ、経営学Ⅱ、専門プロジェクトⅣ
専門演習Ⅱ、専門演習Ⅳ

○教育方法の実践

ゼミ活動を中心に課題発見・解決型学習を行ったことに加え、『キャリア体験』『専門プロジェクトⅢ』『専門プロジェクトⅣ』の受講生を中心に、学生主体の「公開型成果報告会」の企画・実施プロセスを活用したアクティブ・ラーニングを取り入れた。

○作成した教科書・教材

2023 年の共著『最新インターンシップーニューノーマル時代のキャリア形成』（学文社、2023 年 1 月、後掲）に所収されている資料等をもとに、『キャリア体験』の教材として活用するための Teams による配布資料を作成した。

○自己評価

『専門プロジェクトⅢ』『専門プロジェクトⅣ』やゼミ活動を中心に、「アクティブ・ラーニング」を取り入れた授業を展開し、昨年度より新たに担当した『経営学Ⅱ』においても同様の試みを継続できた。したがって、当初の目標・計画については、おおむね達成することができた。

Ⅱ 研究活動

○研究課題

経営・ビジネス系専門教育における職業統合的学習の実践研究

○目標・計画

【目標】

経営・ビジネス系専門教育における、地域ビジネスなどを通じた地域活性化や地域創生に関わるプロジェクト等の取り組み実践を「職業統合的学習（WIL ; Work Integrated Learning）」の視点から比較検討し、類型化する。

【計画】

本年度は、これまで取り組んできた地域ビジネスなどを通じた地域活性化や地域創生に関わるプロジェクト等の実践に関する研究を日本ビジネス実務学会等で発表する。なお、研究成果については、学術論文等として公刊するなど、広く社会に情報発信する。

○2016 年 4 月から 2024 年 3 月の研究実績（特許等含む）

（著書）

- ・古閑博美、牛山佳菜代編著、山口圭介、松坂暢浩、山本美奈子、今永典秀、手嶋慎介、二上武生、戸崎 肇、高瀬和実、高澤陽二郎、柴田仁夫、上岡史郎、眞野目悠太、井崎美鶴子『最新インターンシップ—ニューノーマル時代のキャリア形成』学文社、2023 年 1 月
- ・岡野絹枝、清水たま子編、手嶋慎介、平田祐子、吉田智美、中原亜紀美、若生眞理子、朱宮裕子、岡野大輔、西川三恵子、高宮貴代美、河合晋『よくわかる社会人の基礎知識～マナー・文書・仕事のキホン～』ぎょうせい、2019 年 4 月
- ・愛知東邦大学地域創造研究所編、大勝志津穂、梶山亮子、手嶋慎介、加納輝尚、山本恭子、上野真由美、舩木恵一、深谷和広、阿比留大吉、河合晋、水野英雄、奥村実樹、若月博延『地域が求める人材』唯学書房、2019 年 3 月
- ・吉沢正広編著、明山健師、井上善美、関谷次博、手嶋慎介、鳥居陽介、山内昌斗、山縣宏寿、吉沢壮二郎『実学 企業とマネジメント』学文社、2018 年 3 月
- ・折戸晴雄、根木良友、山口圭介編著、日本インターンシップ学会東日本支部監修、手嶋慎介（分担執筆、他 34 名）『インターンシップ実践ガイド—大学と企業の連携—』玉川大学出版部、2017 年 3 月

（学術論文）

- ・手嶋慎介「産官学連携による地域ビジネス教育の試み」『関西ベンチャー学会九州研究部会第 30 回研究発表会記念誌』関西ベンチャー学会九州研究部会編、デザインエッグ社、2022 年 12 月、pp. 50-59
- ・江藤智佐子、手嶋慎介、椿明美「インターンシップから職業統合的学習 (Work Integrated Learning) への展開可能性—研究誌からみた学会の研究動向に着目して—」『インターンシップ研究年報』第 24 号、2021 年 11 月、pp. 21-39
- ・米本倉基、大重康雄、坂本理郎、高橋眞知子、手嶋慎介「学会員ニーズ調査に基づくチーム研究の在り方検討—学会ワーキング・プロジェクトからの報告—」『ビジネス実務論集』No. 37、2019 年 3 月、pp. 129-136
- ・手嶋慎介、梶山亮子「地方公務員を目指す学生の内的キャリア形成についての一考察—公務員試験対策プログラム受講者へのアンケート調査をもとに—」『東邦学誌』第 47 巻、第 1 号、2018 年 6 月、pp. 111-135

- ・手嶋慎介「産学連携 PBL の実践事例の検討ー寄付型自販機設置プロジェクトを中心にー」愛知学院大学論叢『経営学研究』第 25 巻第 1・2 合併号、2016 年 2 月、pp. 1-12

(学会発表)

- ・手嶋慎介、高橋涼馬『読谷村プロジェクト 2023ー「第 49 回読谷まつり」への参画と沖縄フィードバックー』関西ベンチャー学会第 9 回中部経済研究部会、愛知東邦大学／ハイフレックス、2023 年 12 月
- ・手嶋慎介『初年次経営学科目へのアクティブ・ラーニングの導入ー地元の新聞社との連携による電子新聞の活用を中心にー』関西ベンチャー学会第 32 回九州研究部会、九州共立大学／ハイフレックス、2023 年 9 月
- ・堂野崎融、手嶋慎介、大須賀元彦、西川三恵子『他大学との相互連携における地域連携活動による学生交流および検証』日本ビジネス実務学会第 42 回全国大会、大手前学園さくら夙川キャンパス・E 棟、2023 年 6 月
- ・手嶋慎介、武馬知希『「名古屋センキョ割実行委員会」の取り組みの現状と課題』関西ベンチャー学会第 8 回中部経済研究部会、愛知東邦大学／ハイフレックス、2022 年 11 月
- ・梶山亮子、手嶋慎介『地域との連携によるプロアクティブ行動促進について』日本ビジネス実務学会第 41 回全国大会、愛知東邦大学（オンライン）、2022 年 6 月
- ・手嶋慎介、谷口正博『イベント運営体験を通じたアントレプレナーシップ教育の試み』関西ベンチャー学会第 29 回九州研究部研究会、オンライン、2022 年 3 月
- ・手嶋慎介、松井健斗『産官学連携による若者支援を通じた地域活性化の取り組み（2）ー名古屋市内における実践事例ー』関西ベンチャー学会第 28 回九州研究部会合同研究会・第 6 回中部経済研究部会、オンライン、2021 年 11 月
- ・手嶋慎介、江藤智佐子、椿明美『ビジネス系大学教育における職業統合的学習』日本インターンシップ学会第 22 回大会、札幌国際大学、オンライン、2021 年 9 月
- ・江藤智佐子、椿明美、手嶋慎介『職業統合的学習とインターンシップ研究』日本インターンシップ学会第 22 回大会、札幌国際大学、オンライン、2021 年 9 月
- ・椿明美、江藤智佐子、手嶋慎介『豪州における職業統合的学習(WIL)実施大学の比較研究』日本インターンシップ学会第 22 回大会、札幌国際大学、オンライン、2021 年 9 月
- ・手嶋慎介、松井健斗『産官学連携による若者支援を通じた地域活性化の取り組みーベンチャー研究におけるリーダーシップ教育の視点ー』関西ベンチャー学会第 27 回九州研究部会合同研究会、オンライン、2021 年 7 月
- ・手嶋慎介、西川三恵子、堂野崎融、貝掛祥広、正田淳一『大学間連携による地域ビジネス教育』関西ベンチャー学会第 26 回九州研究部会合同研究会・第 5 回中部経済研究部会、オンライン、2021 年 3 月
- ・手嶋慎介、西川三恵子、堂野崎融、貝掛祥広、吉村美路、河合厚志『「地域と連携した授業・活動」をテーマとする学生セッション事例研究ー遠距離大学間連携による共同教育プログラムの開発に向けてー』日本ビジネス実務学会第 39 回全国大会、オンライン、2020 年 6 月
- ・岡野大輔、手嶋慎介、河合晋『ビジネス実務を考えるー「よくわかる社会人の基礎知識」刊行にあたってー』2019 年度日本ビジネス実務学会中部ブロック研究会、金沢星稜大学、2020 年 1 月
- ・山本玲子、河合厚志、手嶋慎介『つながる・ひろがる読谷村プロジェクト 1.0』2019 年度日本ビジネス実務学会中部ブロック研究会、金沢星稜大学、2020 年 1 月
- ・島袋泰志、阿比留大吉、河合厚志、手嶋慎介『大学の教育プログラムと連動したスタートアップビジネスの事例報告ーTOHO Learning House の仕組みと実績ー』2019 年度日本ビジネス実務学会

中部ブロック研究会、金沢星稜大学、2020 年 1 月

- ・ 手嶋慎介、島袋泰志『読谷村をフィールドとするキャリア教育プログラムの構築ー読谷村インターンシップ・PBL 事例を中心にー』関西ベンチャー学会第 4 回中部経済研究部会・第 24 回九州研究部会合同研究会、愛知東邦大学、2019 年 8 月
- ・ 坂本理郎、手嶋慎介『JAUCB 受託研究報告 地域・産学連携事業の実践を通じたモデルの探求「企業従業員と学生コラボチームによる業務課題解決プロジェクト」』日本ビジネス実務学会第 38 回全国大会、目白大学、2019 年 6 月
- ・ 島袋泰志、阿比留大吉、河合厚志、榊直樹、手嶋慎介、寺島雅隆、山極完治『読谷村インターンシップ・PBL の現状と課題ー読谷村村長推薦入学生による活動事例をもとにー』日本ビジネス実務学会第 38 回全国大会、目白大学、2019 年 6 月
- ・ 山本玲子、上條憲二、榊直樹、手嶋慎介、深谷和広、船木恵一『ビジネスプランコンテスト出場プロセスにおける主体的学びとその支援』日本ビジネス実務学会第 38 回全国大会、目白大学、2019 年 6 月
- ・ 手嶋慎介、奥村実樹、加納輝尚、河合晋、黒野伸子、堂野崎融、西川三恵子、信川景子、若月博延（中部ブロック研究会共同研究者）『JAUCB 受託研究成果報告』2018 年度日本ビジネス実務学会中部ブロック研究会・近畿ブロック研究会合同研究会、新大阪丸ビル別館、2019 年 2 月
- ・ 手嶋慎介、阿比留大吉、葛岡亮哉『教育寮における起業家育成の可能性ー自主運営寮「TOHO Learning House」の事例をもとにー』関西ベンチャー学会第 3 回中部経済研究部会・第 22 回九州研究部会合同研究会、岡崎・セントラルホテル、2018 年 6 月
- ・ 加納輝尚、山本恭子、上野真由美、手嶋慎介『地域・産業界との協働をめざすプレゼンテーション教育の可能性ープレゼンテーション基礎教育に基づく取組事例ー』日本ビジネス実務学会第 37 回全国大会、徳島文理大学、2018 年 6 月
- ・ 山本恭子、上野真由美、加納輝尚、手嶋慎介『ビジネス実務におけるプレゼンテーション教育・学習法の再検討ー他者評価を重視したプレゼンテーション取り組み事例ー』平成 29 年度日本ビジネス実務学会中部ブロック研究会、岡崎女子大学・岡崎女子短期大学、2018 年 1 月
- ・ 梶山亮子、手嶋慎介『地方公務員を目指す学生の内的キャリア形成支援について』日本ビジネス実務学会第 36 回全国大会、神戸大学、2017 年 6 月
- ・ 手嶋慎介『職業実践力育成プログラムの開発ー就業力育成教育プログラムからのアプローチー』日本ビジネス実務学会第 35 回全国大会、金城大学・金城大学短期大学部、2016 年 6 月

(特許)

なし

(その他)

- ・ キャリア支援研究部会研究会#05（共催：九州共立大学『協定校との地域連携活動による学生交流およびそれによる FD の推進』）『地域における課題解決型講義の実践報告』主査、九州共立大学／ハイフレックス、2024 年 2 月
- ・ シンポジウム『大学教育における教学 IR の役割』コーディネーター、2023 年度日本ビジネス実務学会中部ブロック研究会、中京学院大学中津川キャンパス、2024 年 2 月
- ・ 手嶋慎介、土橋凌介、前川慧至『学生による学生のためのキャリア支援ー「金融リテラシー検定」の学内 PRー』「人生 100 年時代の社会人基礎力育成グランプリ中部地区予選大会」一般社団法人社会人基礎力協議会、オンライン、2024 年 2 月
- ・ 手嶋慎介、戸田光、浅井将尊『年中お祭り化計画ー大学を盛り上げる学生たちー』「人生 100 年時代の社会人基礎力育成グランプリ中部地区予選大会」一般社団法人社会人基礎力協議会、オンラ

イン、2024 年 2 月

- ・総括コメント『2023 年度日本インターンシップ学会東日本支部第 1 回研究会』目白大学新宿キャンパス／ハイフレックス、2024 年 2 月
- ・キャリア支援研究部会研究会#04（共催：キャリア支援センター）『Happy な人生を構成する要素って何だろう』主査、愛知東邦大学、2023 年 12 月
- ・キャリア支援研究部会研究会#03（共催：九州共立大学・九州女子大学・九州女子短期大学 IR 研修会）『IR とキャリア教育』主査、オンライン、2023 年 9 月
- ・キャリア支援研究部会研究会#02『これからのキャリア支援―地域・教育機関におけるキャリア支援の現状と課題―』主査、コーディネーター、愛知東邦大学地域創造研究所第 58 回定例研究会、オンライン、2023 年 7 月
- ・キャリア支援研究部会研究会#01（共催：キャリア支援センター）『地域インターンシップという選択―複数企業を取材！シゴトリップの取り組み―』主査、愛知東邦大学、2023 年 6 月
- ・ミニシンポジウム『ブロック研究会と D X』パネルディスカッション進行、2022 年度日本ビジネス実務学会中部ブロック研究会、オンライン、2023 年 2 月
- ・地域連携活動報告会『他大学との相互連携における地域連携活動による学生交流およびそれによる FD の推進』学生発表講評、九州共立大学 S 407 教室、2023 年 2 月
- ・船木恵一、手嶋慎介、寺島雅隆『ニューノーマル時代の地域連携を考える―大学は何を考えるべきか：愛知東邦大学の事例をもとに―（ランチョンセッション）』日本ビジネス実務学会第 41 回全国大会、愛知東邦大学（オンライン）、2022 年 6 月
- ・手嶋慎介、高橋涼馬『学生の力で「六大学討論会」を立ち上げる！』『人生 100 年時代の社会人基礎力育成グランプリ中部地区予選大会』一般社団法人社会人基礎力協議会、オンライン、2022 年 2 月
- ・地域ブランディング研究部会『ウィズコロナ時代の観光地域づくり・人づくりを考える（2）』主査、コーディネーター、愛知東邦大学地域創造研究所第 55 回定例研究会、オンライン、2021 年 8 月
- ・ミニシンポジウム『コロナ禍のビジネス実務と教育』進行、コーディネーター、2020 年度日本ビジネス実務学会中部ブロック研究会、オンライン、2021 年 2 月
- ・地域ブランディング研究部会『ウィズコロナ時代の観光地域づくり・人づくりを考える』主査、コーディネーター、愛知東邦大学地域創造研究所第 54 回定例研究会、オンライン、2020 年 8 月
- ・地域を考える研究会 [SGCR: Study Group to consider the region]、愛知東邦大学地域創造研究所地域ブランディング研究部会『九州共立×愛知東邦「地域を考える研究会」』全体司会進行、九州共立大学、2020 年 2 月
- ・地域ブランディング研究部会『地域プロモーターとして学生寮 TOHO Learning House 5.0 ～長期的持続可能な運営を目指して～』主査、コーディネーター、愛知東邦大学地域創造研究所第 53 回定例研究会、愛知東邦大学、2019 年 12 月
- ・地域ブランディング研究部会『私たちの「前に踏み出す力」は、地域の創造につながるのか～「つながる・ひろがる読谷村プロジェクト」キックオフミーティング～』主査、コーディネーター、愛知東邦大学地域創造研究所第 51 回定例研究会、愛知東邦大学、2019 年 7 月
- ・人材育成研究部会『プレゼンテーション教育は「地域が求める人材」の育成に資するのか～地域・産学連携の視点から～』主査、コーディネーター、愛知東邦大学地域創造研究所第 50 回定例研究会、愛知東邦大学、2019 年 6 月
- ・パネルディスカッション『ビジネス実務におけるプレゼンテーション教育・学習法の再検討―企

業／起業と商業教育の視点からー』コーディネーター、平成 29 年度日本ビジネス実務学会中部ブロック研究会、岡崎女子大学・岡崎女子短期大学、2018 年 1 月

- ・特色ある取組事例『産学連携による人材育成ー愛知東邦大学×榑名古屋グランパスエイトの取組を中心にー』コーディネーター、平成 28 年度日本ビジネス実務学会中部ブロック研究会、中部学院大学、2017 年 1 月

○科学研究費補助金等への申請状況、交付状況（学内外）

- ・愛知東邦大学地域創造研究所 2024 年度共同研究助成(キャリア支援研究部会・主査)申請中

○所属学会

関西ベンチャー学会、経営行動科学学会、組織学会、日本インターンシップ学会、日本経営学会、日本ビジネス実務学会、日本労務学会

○自己評価

複数回の学会発表に加え、研究所研究会を複数回行うことができた。大学間連携協定を締結する九州共立大学共同研究チームとの活動も含め、経営・ビジネス系専門教育における職業統合的学習の実践研究を中心に、今後の研究基盤整備に注力できた。当初の目標は概ね達成することができた。

Ⅲ 大学運営

○目標・計画

【目標】

キャリア支援センター長・キャリア支援センター運営委員会委員長として、委員会重点課題に基づいてキャリア支援に注力する。また、教養教育センター運営委員・学部執行部として正課科目の充実を図るとともに、産業界と連携する活動に積極的に関与し、大学運営に貢献する。

【計画】

キャリア支援としては、他のセンター等による産学連携の動きに伴い、学生の諸活動の活発化に関する改善を通して充実させる。教養教育センター運営委員・学部執行部としては、新カリキュラムに対応した教育研究機関としての大学の基盤整備につながるよう努め、特色づくりに取り組む。

○学内委員等

キャリア支援センター運営委員会委員長、教養教育センター運営委員会委員、経営学部執行部

○自己評価

新カリキュラムに対応したキャリア支援を構想し、スチューデントコモンズを活用してゲストスピーカーを招聘するなど、大学の基盤整備につなげるべく、キャリア教育プログラムを検討した。当初の目標は概ね達成することができた。

Ⅳ 社会貢献

○目標・計画

【目標】

地域企業等との関係を深めるとともに、所属する学会・NPO 活動等に積極的に関与し、キャリア支援事業等に貢献する。

【計画】

地域・産学連携 PBL 等に関連した地域活動や、愛知中小企業家同友会等の外部団体主催のキャリア支援事業等に参画する。学会・NPO の役員としてネットワーク形成に努める。

○学会活動等

- ・日本インターンシップ学会 東日本支部運営委員 2015 年 7 月～現在に至る
- ・日本インターンシップ学会 理事／選挙管理委員会委員長 2022 年 8 月～2023 年 9 月
- ・日本インターンシップ学会 理事／年報編集委員会委員 2023 年 9 月～現在に至る
- ・日本ビジネス実務学会 常任理事／総務・企画委員会委員 2019 年 6 月～2023 年 6 月
- ・日本ビジネス実務学会 編集委員会委員長 2019 年 6 月～現在に至る
- ・日本ビジネス実務学会 副会長／総務・企画委員会委員 2023 年 6 月～現在に至る
- ・関西ベンチャー学会 中部経済研究部会 幹事 2021 年 12 月～現在に至る

○地域連携・社会貢献等

名古屋市を拠点とする認定特定非営利活動法人アスクネットの監事を務めた。また、愛知中小企業家同友会が主催する合同企業説明会を視察し、会員企業経営者と意見交換するなど、地域連携・社会貢献に努めた。

○自己評価

担当科目に関連するキャリア支援活動の一環として、NPO 法人や一般社団法人の活動への協力を通じて、地域の若年者育成に貢献するよう努めた。学会活動では、学会誌の編集を中心に学会運営に貢献することができた。

V その他の特記事項（学外研究、受賞歴、国際学会交流、自己研鑽等）

平成 28 年 4 月より「職業能力開発促進法」に規定された「キャリアコンサルタント（国家資格）」名簿に登録し 7 年目となるため、引き続き活動を充実させる。

VI 総括

教育と研究はバランスよく取り組むよう努め、オンライン活用に関わる改善も含めて、当初の目標は概ね達成することができたと考える。大学運営は、キャリア関連科目担当者として、従来までキャリア支援に関する方向性を模索してきた点、とくに「初年次教育」「インターンシップ」に関して、キャリア支援センター長として活動を継続することができた。引き続き貢献できるよう取り組む所存である。社会貢献は教育と関連して行うことをめざし、教育・研究・大学運営を三位一体と考え社会貢献につながるよう、行政・NPO・企業との連携構築することや、スチューデントコモンズでのイベント企画・開催などの試みを継続することができた。今後さらなる充実をはかりたい。

以 上